

# 学校だより 高遠の子

伊那市立  
高遠中学校  
2023/2/27  
No.14

## 車イス寄贈(2/20)生活福祉委員会



生徒の皆さんをはじめ保護者の皆様のご協力により、アルミ缶を回収し、この度「さくらの里」さんに車いすを贈呈することができました。校舎北側に集められたアルミ缶は委員の手により袋を取り払い、校庭のボックスに入れ直します。「さくらの里」さんからは返礼の図書券をいただきましたことに感謝と恐縮をしています。生徒会で活用方法を検討いただいています。



## 金融リテラシー教育(2/15) 3学年

3学年の社会科の一環で「金融リテラシー」講座を開きました。伊那市教育委員会と八十二銀行伊那支店さんとの共催事業でもあります。

世の中の経済の仕組みや銀行の役割を学習し、そこから将来の自分の将来の暮らし方(ライフプランニング)について考えました。

\*「リテラシー」: 読み書きの力という意味のようですが、広く知識や知識の活用能力という意味で用いるようです。

- ・これからはお金のことについて、関わる事が多くなっていくので、その前にお金をどのように使っていけばいいのかがわかってよかった。
- ・あと三年で、お金の管理を自分でやらなければならない場面が出てくるので、その時の注意すべきところがわかってよかった。
- ・金融トラブルに巻き込まれないための注意点を知り、身近に感じる事ができました。

## 高齢者体験学習（3学年家庭科）

家庭科で「高齢者福祉」を学びました。「…高齢者の感覚を疑似体験できる装備をして実際に歩いてみました。…思っていたよりも体が重く、聞きしづらくなりました。大変な生活の中でも楽しく生きようとする高齢者の方が悲しくならないように、もし関わる時があったら、今日のことでも忘れずに接したいです。…」 「…手首、足首におもりを付け、また、ゴーグル、ヘッドホンなどを付けて高齢者になってみて学校を歩きました。何も見えなくなって、聞こえなくなって、すごく大変で疲れました。…一つ一つの学んだことを覚えておくようにしたいです。」相手の立場に立って考えることの大切さも学ぶことができたことと思います。高齢者と同居しているご家族の方もいます。体験で得た学びを大切にしてほしいと願っています。



## 中学校説明会 1/30・1学年



令和5年度入学生・保護者向け中学校説明会を開催しました。新型コロナ対策のため、児童の皆さんには、オンラインで参加いただきました。5校時の参観では、各教室の授業の様子をオンラインで各小学校に配信して視聴いただきました。6校時の説明会では1年生がそれぞれ準備した内容を発表しました。



## お弁当の日(2/17)

「お弁当の日」を実施しました。事前学習を経て当日に臨みました。保護者の皆さまにはご理解とご協力をいただきありがとうございました。今年は諸事情により高遠小、高遠北小、高遠中で日程調整し、同日開催となりました。来年度も兄弟姉妹が同一日に行えるよう同日開催を検討しています。



上は2学年、下は3学年での学習の様子です。1食分の栄養バランスやどの位つめたらいいのかなど、学習しました。



## 授業参観日(2/1)

2月1日は、本年度最後の授業参観にご来校くださりありがとうございました。また、学年学級PTAへのご参加ありがとうございました。

### 【校長講話】

#### 1 保護者の皆様に感謝とお願い

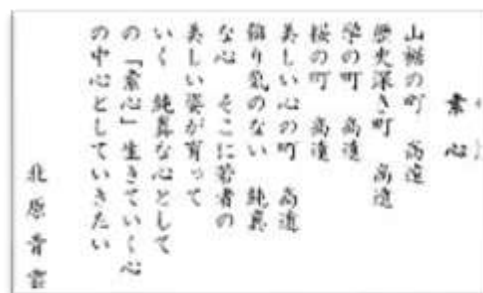
こんにちは。お家の皆さんには寒い中ご多用のところ本校にお越しいただき感謝です。生徒の皆さんにはいろいろに頑張ってくださいありがとうございます。お家の皆さんには日頃より学校、子どもたちのためにお力をかけていただき感謝です。ありがとうございます。

12月アンケートではたくさんのご意見をいただきました。私たち教職員も生徒の皆さんのために工夫、改善をしていこうと努力をしているところです。アンケートの中でうれしい事とうーんという事があります。皆さんの中で楽しい学校生活を送っている人がたくさんいる中で、今年、切ない思いをしたというアンケート結果をいただいています。友達の事で、様々な事で切ない思いをしている。これを重く受け止めています。担任の先生を中心にケアをしているところです。忘れてはいけないと思っています。うれしかったことは、私がという事ですが、「学校の事をお家の方によく伝えてありますか」というアンケートで、「よく伝えている」で100%いただきました。だけど私は満足していません。お答えしている方が全員ではないからです。もしかしたらお答えしていない方の中で、まだまだ高遠中学校、校長、ちゃんと話をしていないぞと思っている方がいるかもしれない。そういう思いを頭の中、心の中に受け止めて話をしていきたいと思っています。

次をお願いします。特に1、2年生とお家の方にです。高遠中学校の大きな特色は4月の観桜期活動です。観桜期活動を通してたくさんのお話を勉強しています。是非、来年の観桜期活動にたくさん参加してください。お家の皆さんも是非協力してください。たくさんの方が関わる事によって子どもたちのすばらしい姿を見てもらいたいし、高遠を訪れる方の笑顔をみんなで共有したいと思っています。

#### 2 「高遠の子」

改めて今日お話ししたいのは、「高遠の子」と書いてある実践目標です。田山花袋「たかとはは山裾のまち、古き町ゆきあう子らの美しき町」。



私は、この「ゆきあう子らの美しき」の美しさって何だろうってずっと考えています。皆さんだったらどうですか。いろいろあっていいんだよ。校長室の詩を紹介します。

皆さんの大先輩、北原青雲先生が高遠の子に寄せて「素心」を残してくれました。私はこの素心が皆さんの柱、礎、そこに位置付くのでは、美しい心とは純真な心では、という思いでいます。その具体をお話します。高遠の中学生のすばらしさはいろいろなところから聞こえてきます。授業を一生懸命受けている姿、清掃を一生懸命に行う姿、学校に来る皆さんが誉めてくださいます。例えば、高遠にツーリングで来た方が、中学生が横断歩道でお辞儀をしてくれた、その姿がとてもうれしくて、ツーリングの一番の思い出になったとお話を寄せてくれました。昨日も3人の男子生徒さん、横断歩道を渡った後、お辞儀を、お礼を返していました。同じ姿です。高遠の子はすごいな、いい子が育っているな、ありがたいな、皆さんに感謝です。

「高遠の子」。「挨拶愛語」美しい言葉、思いやりの心で自分を大事にしていこう、「清掃不言」一生懸命やっている、「花作相見」花づくりで美しい環境を作ろうとしている、「歌声響合」仲間との関りを大事にしていこうとしています。よく考えてみると、全て自分のためになっているけど、誰かのためにもなっている。挨拶は、自分の心を育てているけど、相手の方だってうれしいよね。人間関係を作っていける。清掃もそうでしょ。自分の使っている周りがきれいになるだけじゃなくて、周りの人だってきれいになっていれば気持ちいいよね。誰かのためになっていますよね。花作りもそうだよ。自分で育てて自分が気持ちいいだけじゃないでしょ。そこを訪れた人だって心が和むよね。歌声響き合いもそうでしょ。伊澤修二記念音楽祭の3年生の合唱、全校の「仰望」。聞いた人から、「高遠中学校の生徒さん、すごいね」「すごい歌声を聞かせてくれた」たくさんの方がすばらしかった、良かったと声を寄せてくれました。私自身も感動しました。皆さんの姿です。そうやって皆さんが一つ一つ実践目標をやっている中で、誰かのためになっている。2学期にもお話しました、自分のためにやっている事が、誰かのためになっている。「自利利他」と言いました。誰かのためにやっている事が実は自分のためになっている。苦しい事があるかもしれないし、せつない事があるかもしれないし、いやだなと思うことがあるかもしれないけど、それは必ず誰かのためになっているし、自分のためになっている。苦しい事には価値がある。価値があることは尊い。尊い事なら頑張ろう。

### 3 思い出話

私は十数年前に一度この高遠中学校で理科の先生をやっていたときの思い出。平成18年、今から16年ほど前の話。3年生の学年主任をしていました。4月、修学旅行に一緒に行きました。3日目に比叡山延暦寺に行きました。2月上旬、雪の中、比叡山に下見に行

って、是非高遠中学校の3年生に法話、お話をしてくださいとお願いに行きました。突然の訪問でお願いをしてきました。まさか実現するとは思わなかったけれど「やってもいいですよ」とお返事がきました。法話をしてくださった方は、小堀光實（こぼりこうじつ）先生。当時、延暦寺でとりまどめの仕事をされていたと思いますが、今は京都の三千院の門主さんをされている方です。その小堀先生からお話をいただきました。根本中堂で1時間の法話。小堀先生から当時の校長先生へのお手紙で、それまでなかったこととのこと、高遠中学生が初めてだった、ドキドキしながらお話ししたとのことです。

### 4 「只今」

そこで、小堀先生がこういう話をしてくれました。クイズじゃないですよ。「只今」って、皆さんは家に帰ると言いますか。言うよね。「只今」の言葉の前とか後ろに何がつきますか。お家の皆さん、どうでしょう。「只今」の前とか後にどんな言葉がつくのでしょうか。当時の中学生は誰も答えませんでした。そこで山崎、答えよと小堀先生が私を指名したので、私は「私の家には帰っても、両親は共働きで家にいませんでした」と返事をしました。そうしたら小堀先生、フォローをしてくれたんですけど「山崎先生はよく分かってらっしゃる」と言うんです。私はその時全然分かってなかったです。この「只今」の前とか後につく言葉は「お母ちゃん只今」「お父ちゃん只今」「おじいちゃん只今」。皆さんを。皆さんが大事に思っている人、一番身近な誰かを呼んで「只今」って。どうでしょう。なんとなく分かりましたか。小堀先生はこう話をするんです。「子どもは(ごめんなさいね、皆さんのことを子ども、子どもって言っちゃいけないんだけど)、家に帰ると大事な人を探すんです」外に行って帰ってくると、一番大事な人を探すんです。小堀先生は、「父ちゃん只今」「母ちゃん只今」と言う人が少なくなったという話を残してくれました。そして、中学生に「おじいちゃん、おばあちゃん、弟さんや妹さんにとって、居てもらわなくてはならない人になってほしい」「みんなには、誰かにとって居てもらわなくてはならない人になってほしい」そう言葉を結んでくれました。自分のためにやっている事が誰かのためになっているという話をしたんだけど、もっと大事な事は、君たち一人一人は必ず誰かにとって「居てもらわなくてはならない人」なんだよ。すでにそうなっている。だから、自分をうんと大事にしてください。お家の方にとって皆さんは宝物です。

最後に小堀先生が、「いやあ、この高遠中学生はよく話を聞きますね、山崎先生、この3年生をどういう風に見ていますか」と。当時、私は「今までいくつか学校を回ってきたけれど、こんなに行儀のいい生徒はいません」と答えました。今はちょっと違います。「こんなにすばらしい生徒は、他にはおりません」と。そう答えます。お話を終わります。